

カボチャ「ゆきこ」のJA大樹町の現地栽培事例

雪印種苗(株)帯広営業所

金 村 公

1 大樹町の農業概要

大樹町は十勝平野の南部に位置し、帯広市から南へ約60km、車で約1時間位のところで、太平洋に面していて、夏季の気候は偏東風の影響を受け、冷涼な気候が続く関係で、酪農が中心の町です。

また、広大な面積があることから宇宙基地の立候補地でもあります。

農業は酪農が中心で、乳用牛16,747頭、肉用牛5,750頭、畑面積は10,627haです。この中で畑作物は馬鈴しょ507ha、小麦368ha、てん菜528ha、豆類550ha、飼料作物は7,635ha、野菜はダイコン75ha、カブ2ha、スイートコーン65haなど冷涼な気候を利用した作物を生産しています。

2 カボチャの取り組み

この地域の夏場は昼夜の温度格差が大きいこと、酪農家が多いことから堆きゅう肥が豊富なため、消費者によるこぼれるおいしいものを作ろうと、カボチャの栽培面積と生産者の数は少ないものの、JA大樹町の有機減農薬栽培グループは意欲的にカボチャ栽培に取り組んでいます。

3 「ゆきこ」導入の経緯

大樹町の農業技術試験圃において、安全で、おいしいもの、差別化ができるカボチャがないものかと、いろいろな品種を数年間、品種比較試験を行なって検討した結果、「ゆきこ」の形状、果皮の色、味の面で、差別化商品として、特に有望と判断され、大樹町では「ゆきこ」を平成6年から導入することになりました。

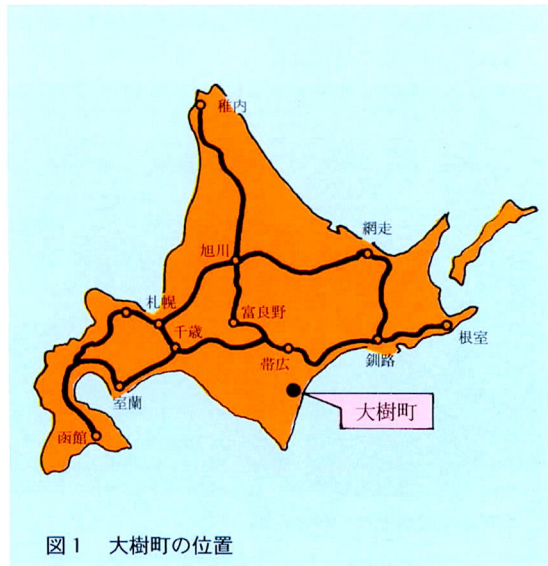


図1 大樹町の位置

現在、「ゆきこ」の栽培は、3戸で、4.2haを栽培していて、販売は生協への販売が主流ですが、組合員から「すごく、おいしいカボチャ」として、大変好評で、注文が殺到したくらいです。

4 「ゆきこ」の特性

①果実特性

果形はくり型で、1果重は1.6kg程度、花痕が非常に小さく、収穫時の果皮色は淡緑色に灰白色の斑が入り、果肉は厚いため、見た目よりも重く、肉質はホクホクして粉質が高く、煮くずれすることなく、食味がよく、様々な料理に利用ができます。

②草姿、草勢、成熟日数

初期はややおとなしい生育をしますが、つるが伸び始めると葉は大葉になり、生育は旺盛です。着果は極めて安定し、つるぼけはしにくく、1



写真1 大樹町の栽培風景



写真2 収穫期をむかえた畑

つるに2~3個着果し、連続着果性が強いです。

成熟日数は45~50日で完熟します。着果性は良好で、奇形果が少ないため規格内率が高く、収量があがります。

5 JA大樹町の栽培概要

1) 「ゆきこ」の栽培時期

地域	作型	5	6	7	8	9
大樹町	露地 (マルチ)	●	△	—		■

● 播種期 △ 定植期 — 生育期 ■ 収穫期

図2 「ゆきこ」の栽培時期

この地域は十勝平野の南部に位置しますが、偏東風が強い地帯であるので、カボチャの開花期が夏の高温になるように、早まき、早植にならない作型で栽培しています。

2) 育苗

てん菜の苗を育苗したハウスを利用してカボチ



写真3 極めて粉質が高く料理に最適

ヤの苗を育苗しています。

ポリ鉢にカボチャの種子をまき、約27~30日育苗しますが、老化苗にならないように注意しております。

3) 圃場の選定と定植

風の強い地帯なので、耕地防風林に囲まれた圃場を選んで、カボチャを栽培しています。

土壌は火山性土壌ですが、なるべく排水の良い畑を選んでカボチャを栽培するようにしています。

定植後の生育を良くするために、マルチ栽培をしています。

栽植密度は畦巾3~3.5m、株間70~80cmにして、晴天を見計らって定植をしています。

4) 施肥

酪農家が多いので、10a当たり堆きゅう肥を3t、有機肥料、化成肥料で窒素8kg、りん酸10kg、加里8kgが標準で、この中、窒素、加里の40%は着果後に施用しています。

5) 管理

この地帯は畑作地帯で経営面積が広いので、カボチャ栽培も省力化が必要で、放任栽培が主体になっています。

親づるが40~50cm伸びた頃に一定方向につるを誘導してやる程度で、その後は放任です。

したがって、人工交配はほとんどしておりませんが、果実の肥大終了期(結実後25日頃)に玉直しとマット敷きを行ない品質の向上に努めています。

このようなことから、カボチャが最も安心して栽培できる作型で栽培し、一斉着果を前提にした

カボチャ栽培に努め、収量、品質の向上を図っている地帯であります。

この外、主な管理作業は、畦間の除草（主にカルチベータによる除草）と、うどん粉病の防除になります。

うどん粉病の防除は発生初期にモレスタン水和剤3,000~4,000倍液を散布するぐらいで、減農薬栽培に努めております。

6) 収穫

収穫は着果後40~45日をめどにしますが、積算温度（1,000°C前後）を参考にしています。「ゆきこ」の適期収穫期の判定の目安としては、果実の果皮色が緑色から淡緑色になり、白色を帯びて光沢が出てくるので、この時期が収穫適期になるので、若どり、早どりすると本来の特性が発揮できないので、よく完熟させてから収穫するようにしています。

収穫はなるべく晴天の日に行い、収穫後はキュアリングを十分にしておいて長距離の輸送に耐えるようにしています。

平成9年は異常気象が続きましたが、10a当たり収量は、1,300~1,800kgでした。

6 出荷・販売先と評価

「ゆきこ」の出荷・販売は、JA大樹町を通じて販売しています。

平成9年度の主な販売先は、札幌市の生協へ28.1%、東京都の生協へ56.4%、新潟市の生協へ15.5%になっています。

出荷、販売先の評価は「ゆきこ」は肉厚で可食部が多く、カボチャの中では抜群に美味、購入してから日持ちがよいなど、生協の組合員に大変好評で、注文が多く、生産が注文に間に合わず「まぼろしのカボチャ」と呼ばれるほどの人気のある品種です。

7 今後の方針

JA大樹町のカボチャ「ゆきこ」の有機減農薬栽培グループでは、平成9年度の成果を基に、この地域の夏~夏秋は昼夜の温度格差が大きく、良食味のカボチャが生産できることから、差別化商品として「ゆきこ」を目玉にした産地づくりを進めていきたいと意気込んでおられます。

健全な野菜作りを スノーグローエースがサポートします



SNOW GROW ACE

スノーグローエース

バイオの活力で大きく育つ。栽培・新技術で大きく育てる。

根のしっかりした
健苗を育てよう

丈夫な苗作りに
トマト、なす、きゅうり、
ピーマン、メロン、
ずいか等。

初期生育を揃え
安定生産を図ろう

作物の生育に
ほうれんそう、にんじん、
だいこん、たまねぎ等。

落花や成りづかれ
を防ごう

増収へ確かな一歩
さやいんげん、さやえんどう、
大豆、菜豆等。

活力を与え生育を
しっかり支えよう

充実した穂に
馬鈴しょ、スイートコーン、
ながいも、さといも等。